

## 再臨とその後の出来事、千年王国（黙示録 19 章～20 章 6 節）

## ■はじめに

熊本集会では、中川先生のメッセージ・シリーズ「黙示録」に基づいて、終末に起きる出来事を時系列で見えています。これまでに、下の表：この後に起きる事、⑤の「二つのバビロン」までを学びました。本日は、⑥の「再臨とその後の出来事」と⑦の「メシアの王国」、黙示録 19 章～20 章 6 節、です。

## ■黙示録のアウトラインと概要

## 1. 黙示録のアウトライン (1 : 19)

- (1) 序文 (1 : 1～8)
- (2) ヨハネの見た事 = 天におられる主イエス・キリストの姿と啓示 (1 : 9～20)
- (3) 今ある事 = 七つの教会に宛てた手紙 (2 章～3 章)
- (4) この後に起きる事 = 大患難期・メシアの王国・永遠の秩序 (4 章～22 : 5)
- (5) 結語 (22 : 6～21)

2. 今ある事 = 当時実在した教会の状況 → 教会時代の七つの流れを預言したもの  
→ 携挙のときに存在する教会のタイプは⑦に限らず、特に④⑥

	教会名	意味 = 特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代 (第 2 世代)	30～100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100～313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313～600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600～1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517～1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648～1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900～現在

## 3. この後に起きる事

	区分	黙示録の箇所	
①	大患難期の前に天で起きる事	4 章～5 章	
②	大患難期【7 年間】	前半期	6 章～9 章
③		中間で起きる事	10 章～14 章
④		後半期	15 章～16 章
⑤		二つのバビロン	17 章～18 章
⑥	再臨とその後の出来事	19 章～20 : 3	
⑦	メシアの王国【千年間】	20 : 4～6	
⑧	メシアの王国の後の出来事	20 : 7～15	
⑨	永遠の秩序	21 章～22 : 5	

## ■ この後に起きる事 3-⑥ 再臨とその後の出来事（黙示録 19 章～20 章 3 節）

## 1. メシアの再臨の前に起きる出来事 (19 : 1～10)

## (1) 天における大群衆の賛美 (1～3 節)

- ① 1 節 この後 2 節 → 大淫婦 (宗教的バビロン) の崩壊の後
- ② 1 節 第一のハレルヤ 宗教的バビロンが神の裁きを受けたこと
- ③ 3 節 第二のハレルヤ バビロンの煙は永遠に立ち上る = 政治的バビロンが神の裁きを受けること、その滅亡は永遠であることの宣言

- (2) 24人の長老と4つの生き物の礼拝(4~5節)
- ① 4節 第三のハレルヤ
  - ② 24人の長老=携挙された教会、4つの生き物=セラフィム(黙4:2~10)
  - ③ 5節 御座から声が出た=御座近くにいる天使が発した声
  - ④ 大きい者も小さい者も、神を恐れかしこむ者は、神を賛美せよとの招き
- (3) 小羊の婚姻(6~8節)
- ① 6節 第四のハレルヤ 小羊の婚姻を喜ぶハレルヤ
    - 万物の支配者=「全能者」という意味のタイトル、神は常に主権者であり全能のお方であるとは、黙示録で一貫して語られる主題である。
    - われらが神である主は王となられた→みこころが天になるごとく、地でもなろうとしている。神の国は、「奥義としての御国」から「メシアの御国(千年王国)」へ
  - ② 7節 小羊の婚姻の時が来た、花嫁は用意ができた
    - 花婿は「小羊」=メシア
    - 花嫁は、教会。用意ができた=「キリストのさばきの座」(Ⅱコリ5:10、Ⅰコリ3:10~15)を通った
  - ③ 8節 花嫁はきよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。
    - 聖徒たちとは、信仰によって義とされた者たち。自分の行いではない。
    - その彼らが行う正しい行いとは、聖霊によって行い、神のみこころにかなう行いである。
    - キリストの裁きの御座を通ると、それだけが残る。
- (4) 小羊の婚宴についての宣言(9~10節)
- ① 9節 小羊の婚宴に招かれた者は幸いである
  - ② 招待客とは
    - 紀元30年のペンテコステにおける聖霊降臨よりも前に、信じて救いを受け、かつ死んでいた信者たち(旧約時代の信者)。バプテスマのヨハネもこの中にある(花婿の友人、ヨハネ3:27~30)
    - 教会の携挙のあと、信じて救いを受け、かつ死んだ信者たち。そのほとんどは、大患難期において殉教の死を遂げた者たち。
  - ③ 小羊の婚宴は、千年王国が設立される前に、地上で行われる。
    - 招待客たちは、メシアの再臨後、小羊の婚宴の前に、復活する。
  - ④ 「これは神の真実のことばです」=神が語られたことばは、すべて成就する
  - ⑤ 10節 天使礼拝は禁止
    - 「イエスのあかしは預言の霊です」=聖書の預言は、イエスを証しする。その預言を与えた者は、聖霊である。天使は、その啓示を伝達する役割。
    - 「神を拝みなさい」=イエスも聖霊も、信者を父なる神へ向かわせる。
2. メシアの再臨(19:11~21)
- (1) 白い馬に乗った方=メシアの姿(11~13節)
    - ① 11節 白い馬 →詩18:8~16 再臨預言「ケルブに乗って」(18:10)
    - ② 13節 血に染まった衣 →イザ63:1~6 「ひとりで酒ぶねを踏んだ」
  - (2) メシアの再臨(14~18節)
    - ① 14節 天にある軍勢(複数形)
      - 天使たち(マタ16:27、25:31、Ⅱテサ1:7)

- 聖徒たち (黙 19 : 14 「まっ白な、きよい麻布」 → 黙 19 : 8)
- ② 15 節 鉄の杖 → 詩 2 : 9
- ③ 再臨のメシアは、神のはげしい怒りの酒ぶねを踏む
- ④ 17 節 太陽の中に立つひとりの天使が、すべての鳥を招集する。反キリスト軍の屍に鳥たちを群がらせるため。
- (3) ハルマゲドンの戦い・第7段階 (19、21 節) (2) ③と④の現場描写
- 3. 75 日間のインターバル (ダニ 12 : 11~13)
  - (1) 「荒らす忌むべきもの」が除去される (ダニ 12 : 11)
  - (2) 反キリストが復活する (黙 19 : 20 「生きたままで」) = 第二の復活の初穂
  - (3) 反キリストと偽預言者が火の池に投げ込まれる (黙 19 : 20)
  - (4) 悪魔が縛られ、「底知れぬ所」(アビス) に閉じこめられる (黙 20 : 1~3)
  - (5) 生き残った異邦人が裁かれる (ヨエル 3 : 1~3) = 羊と山羊の選別 (マタ 25 : 31~46)
  - (6) 旧約時代の聖徒たちが復活する (ダニ 12 : 2、イザ 26 : 19)
  - (7) 大患難期の殉教者たちが復活する (黙 20 : 4~6)
  - (8) 小羊の婚宴が行われる (黙 19 : 9、マタ 22 : 1~14 【ユダヤ人】、25 : 1~13 【異邦人】、イザ 25 : 6~8 【ヤハウエとその妻イスラエル民族との再婚の意味も持つ】)

■ この後に起きる事 3-⑦ メシアの王国 (黙示録 20 章 4 節~6 節)

1. メシアの王国に関する啓示は、この3節だけ。
  - (1) 黙示録の目的は、旧約聖書のあちこちに出て来る預言を、時間順に並べること
  - (2) メシアの王国に関する預言は、時間順に並べる必要がない。しかし、旧約聖書の預言は、メシアの王国まで。それが永遠の御国であるかのような印象になる。
  - (3) 黙示録 20 章 4 節以降には、旧約聖書になかった新しい情報が、2点含まれる。
    - ① メシアの王国は千年間続く。
    - ② メシアの王国が終わると、その先に「永遠の秩序」がもたらされる。
2. 4 節 《新改訳聖書の日本語訳には一部に意識がありますので、直訳にした上で、フルクテンバウム博士の「Footsteps of the Messiah」394 頁に基づいて、補足説明します》
  - (1) 直訳 (特に下線波線の部分)
    - ① そして私は、座 (複数形) を見た。そして彼らはその上にすわっていた。そして裁きが彼らに与えられていた。
      - 「裁きが与えられていた」とは、キリストの裁きの座を通ったということ。キリストの裁きの座において、千年王国における地位が決まる。よって、この人々は、大患難期の前に携挙され、キリストの裁きの座を通過した教会の聖徒たち。
    - ② そしてイエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人々のたましいを = 大患難期前半期の殉教者たちのたましいを
    - ③ そして獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人々を = 大患難期後半期の殉教者たちを
    - ④ そして彼らは生きた、そして統治した、キリストと共に
      - ①から③の3つのグループの人々が、千年王国においてキリストと共に統治する。①は携挙のときにすでに復活しているので、原語では「生き返った」とは言わない。
      - ②と③の人々が千年王国では「生きた」ということは、王国が始まる前に

復活したということである。その説明が、黙 20 : 5~6 に続く。

- (2) 詩篇 72 : 9~11 の「王たち」
- ① 9 節と 11 節の「彼」は、メシア。72 : 1 の王である。
  - ② 「王たち」は、メシアに仕える立場にある。よって、黙 20 : 4 の共同統治者たちではない。
  - ③ 第一の復活に関係なく、王国に入っているということは、彼らは復活の体ではない。大患難期を生き残り、「羊と山羊の選別」を通過した異邦人信者である。彼らの中に、千年王国の異邦人諸国において「王たち」となる人々がいる。
  - ④ よって、この王たちは、王の王であるメシアとその共同統治者である「教会の聖徒たちと大患難期の殉教者たち」の下に、位置する。
- (3) 千年王国における異邦人部門は、上位から順番にあげると、「メシア、共同統治者たち、王たち、異邦人諸国民」という支配体制になる。
3. 5 節 これが第一の復活である。
- (1) その他の死者（不信者たち）は、千年、すなわちメシアの王国が終わったあとに復活する（=第二の復活）→次回のテーマ 3-⑧ メシアの王国の後の出来事
  - (2) 第一の復活には順番がある（I コリ 15 : 20~23）
    - ① 主イエスの復活は初穂である（I コリ 15 : 23）
    - ② 携挙のときに起きる、教会時代の聖徒たちの復活（I テサ 4 : 16）、注意＝携挙のときに地上で生きている聖徒たちは、復活ではなく、「変換」。肉体の死（=第一の死）を経ないで、イエスの復活の体と同じ栄光の体を受ける。
    - ③ 大患難期の中間期で起きる、二人の証人たちの復活（黙 11 : 11）
    - ④ 大患難期はメシアの再臨で終わる。その後、メシアの王国が始まる前に、旧約時代の聖徒たちが復活する（イザヤ 26 : 19、ダニ 12 : 2）
    - ⑤ 大患難期における殉教者たち（黙 20 : 4）
  - (3) 千年王国時代の人々は、第一の復活には関係しない。
    - ① 不信者は、100 歳で死ぬ（イザヤ 65 : 17~25）
    - ② 信者は、死ぬことなく、千年王国の終わるまで生きる。千年王国の終わりと共に、変換されて栄光の体を持つことになる、または、その前のある時点で変換される。いずれにせよ、復活ではなく、変換である。
    - ③ イスラエル民族は全員が 100 歳になるまでに信者となる（エレ 31 : 31~34）ので、死者は出ない。
    - ④ よって、千年王国時代の死者は全員、異邦人の不信者であり、第一の復活と関係する者はいない。
4. 補足：千年王国におけるイスラエル人部門の支配体制
- (1) メシアは、異邦人部門もイスラエル人部門もすべてを支配する、王の王である。
  - (2) イスラエル人部門全体を支配する王=復活したダビデ（エレ 30 : 8~9、エゼ 34 : 23~24、37 : 24~25、ホセ 3 : 5）
  - (3) 12 部族を支配する者=使徒たち（マタ 19 : 28、ルカ 22 : 28~30）
  - (4) 君主たち、または首長たち（イザ 32 : 1、エゼ 45 : 8、ハガイ 2 : 20~23）
  - (5) さばきつかさたちと議官たち（イザ 1 : 26）
  - (6) よって、千年王国におけるイスラエル人部門は、上位からあげると「メシア、使徒たち（部族ごとに）、君主たち、さばきつかさと議官たち、イスラエルの人々」
  - (7) イスラエルは異邦人諸国を支配する（申命記 15 : 6「約束」、28 : 1、13「その条件」、30 : 6~8「条件を満たす=新生」、イザ 14 : 1~2、49 : 22~23、61 : 6~7）